



女川町での小中一貫校におけるモビリティマネジメントの実践



- 子供向けのモビリティ・マネジメント教育の代表例として、バスの乗り方教室などにより、**子供たちがモビリティを体験する機会が自治体・事業者の連携により提供**されている。
- 自治体・事業者には継続的な取り組みであっても、**子供たちには1回の経験**であり、意識の定着までに至っていない。

小学生

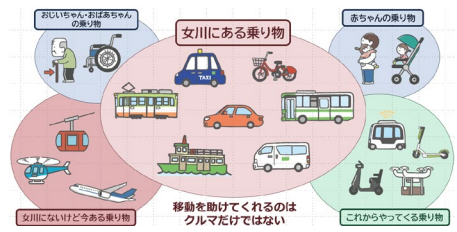
中学生

高校生

- 公共交通を知るだけでなく、**自動車を含む移動全般を助けてくれるものを学ぶ。**
 - すでに地域の中にある移動手段
 - 高齢者や子供の移動を助けるもの
 - 未来の移動を助ける新しい移動手段
- 学びを踏まえて、**理想の移動を助けてくれるものを考える。**

- 移動手段を知るだけでなく、**移動に関わるコストを学ぶ。**
 - 空間的(距離)アクセシビリティ
 - 時間的アクセシビリティ
 - 金銭的アクセシビリティ
- 同じ目的地に**公共交通と家族の送迎で移動した場合の、距離・時間・コストを比較。**

- 直接的なコストを知るだけでなく、**移動に関わる複合的な価値を学ぶ。**
 - 乗合の環境価値(CO2の削減効果)
 - 徒歩の健康価値(医療費の削減効果)
- 移動に関わるコストに加えて、**公共交通を利用することの付加価値を比較。**
- (南三陸高校で実施)



	時間	運賃	ガソリン	維持費	人件費	健康	環境	合計
車	56分	0円	311円	704円	824円	0円	31円	1786円
電車	130分	840円	0円	0円	0円	-409円	6円	430円
差分	74分						合計	1356円

車での移動は74分の時間を1356円で買っている



移動を助けてくれるものを知る

移動に掛かるコストを知る

移動できることの価値を知る

世代ごとにモビリティに触れる機会を提供することで行動「変容」を「定着」へ